

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜山中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 知識・技能の活用に課題が見られる。 <指導上の課題> 知識・技能の選択の場面設定に課題があると考えられる。	⇒ ・定期テストでの対策授業を実施する ・成果が分かりやすい小テストを実施する ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 考えをまとめたり表現することに課題が見られる。 <指導上の課題> 授業ではそうした場が設定されているので、今後の変容に期待したい。	⇒ ・発表を全体に公開する機会を増やす。 ・全教科で生徒の学習意欲が向上する工夫を、その教科領域の特性を生かして考える。 ・「学びのポイント」(ジ・シ・ヤ・ク)に基づいた授業づくりを推進する。 ・SSSPを推進させ、自分の力で学習を勧められるようにする。 ・ICTを活用し、自分の考えを発表する場面を意図的に作る。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	結果提供(2月)
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」において、特に「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる」問題に課題がみられた。全国平均と20%以上の差があった。このことから、語彙力に大きく課題があることが考えられるため、一層の語彙力強化が求められる。 数学の「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」問題において課題が見られた。ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める問題で全国平均と12%以上の差があった。表を分析するという点に課題がある。
思考・判断・表現	国語では、自分の考えを伝える問題や、内容を要約する問題で、全国平均と10%~13%下回る結果が見られた。数学では、数学的な表現を用いて説明する問題と、筋道を立てて証明する問題で全国平均を10%以上下回る結果が見られた。数学的な思考における表現力は身につくつつあるが、語彙における表現力は乏しいという結果が出ていると思う。言葉の力については、生活環境や日常的な学習経験の影響を大きく受けるため、短期間での改善が難しい面があると考えられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	年度当初、校内研修で研究主題「生徒たちの学習を充実させる体験学習や発表活動の充実」を確認し、12月の指導訪問も含めて、生徒が意欲的に知識・技能を学ぶ工夫を考える計画を確認した。7月に2回目の校内研修を実施して、夏休みに向けての課題を話し合った。	・校内研修で生徒たちの学習を充実させる体験学習や発表活動を共有し、改善する。 ・評価活動の研修を行い見直しをする。
思考・判断・表現	B	全国学力では、知識・技能を活用する場面設定において課題が見られた。各学年とも総合的な学習や特別活動においてそれぞれの発表場面を設け、教科でも知識・技能を活用して発表する取組を実施しているので、それらの効果を期待したい。	・発表を取り入れた授業の共有、改善、見直しをする。 ・8月に12月の授業者の先生による指導案検討を校内研修で実施した。 ・ICTの活用例を9月の校内研修で行う。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)